

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

スクミリンゴガイの発生予測と防除徹底について

前年12月から当年2月までの平均気温に基づき本種の越冬率を推定したところ、越冬率は高いと見込まれます。また、早期水稲においては、すでに移植苗への食害を認めています。については、本種の防除徹底について、生産者への指導をお願いします。

記

1. スクミリンゴガイの越冬率予測と発生状況

- (1) 本種の春期の越冬生貝率は、前年12月～当年2月の平均気温が高いほど高くなる傾向があり、平均気温に基づく予測式から、本年の越冬生貝率は高いと推定される（図1）。
- (2) 5月19日に実施した早期水稲における調査では、1㎡あたりの平均生息数は2.8頭で、平年並（3.1頭（令和2～7年の6か年平均値））である。また、一部の圃場では、本種による食害を認めた。

以上のことから、山間早植え水稲及びこれから移植時期を迎える平坦部の普通期水稲において本種の被害が発生するおそれがある。

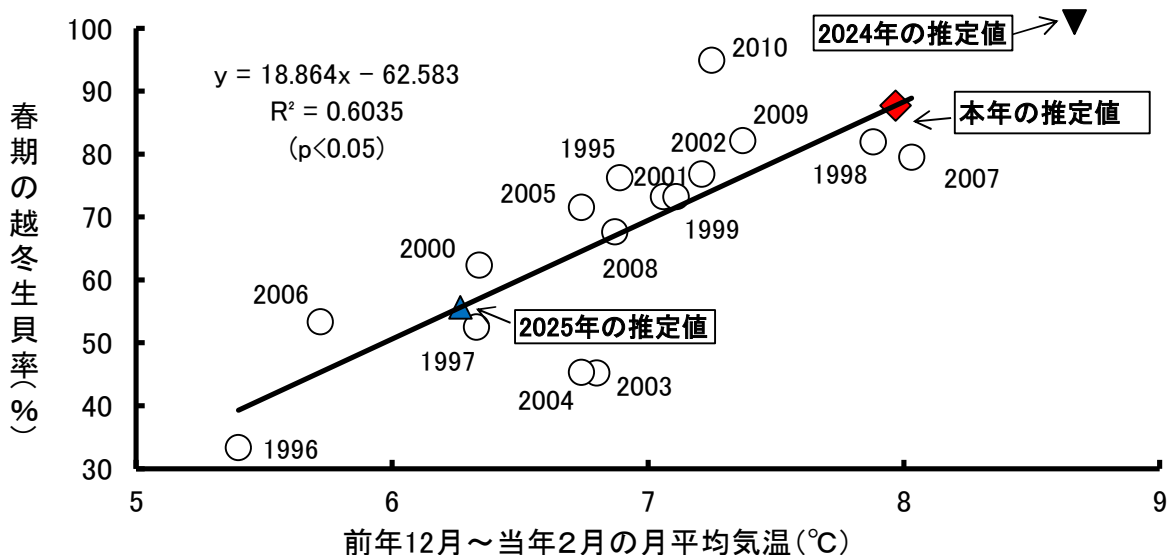


図1 水田内でのスクミリンゴガイの越冬生貝率と冬期の平均気温との関係

○：1995～2010年の実測値（佐賀市の気温と、佐賀市内の同一水田における越冬生貝率。水田の越冬調査は2010年で終了）、◆：2025年12月～2026年2月の気温を用いて上記の関係式から推定した本年(2026年)春期の越冬生貝率。▲：2024年12月～2025年2月の気温を用いて上記の関係式から推定した2025年春期の越冬生貝率。▼：2023年12月～2024年2月の気温を用いて上記の関係式から推定した2024年春期の越冬生貝率。

2. 防除対策

(1) 田植え前まで

- ①水路の卵塊の駆除や貝の補殺を地域ぐるみで実施する。
- ②排水口の出口は水路の水面より上に位置するようにし、貝の水田への侵入を防止する。
- ③揚水ポンプ等からの侵入を防ぐため、吐出口などに9mm目合い程度のネットや金網を設置する。
- ④浅水管理で水深を均一に保つために、丁寧な代かきを行い、圃場の均平化を図る。
- ⑤降雨などで浸水しやすい水田では、水路側の畦を高くして侵入防止に努める。
- ⑥中・成苗を移植する。
- ⑦圃場をよく観察し、本種の発生を認めたら以下の田植え後の対策を徹底する。

(2) 田植え後

- ①田植え後約3週間は、水深1cm程度の浅水管理とする。
- ②浅水管理を容易にするため作溝をする。また、溝に集まった本貝を捕獲する。
- ③メタアルデヒド剤、チオシクラム剤等の登録薬剤を処理する。

【メタアルデヒド粒剤の使用上の留意点】

- ①は種または移植後に本種を確認したら、直ちに散布する。
- ②散布後7日間は湛水状態を維持し、落水やかけ流しはしないこと。
- ③本剤の残効は深水管理で短くなる傾向が認められるため、処理後は浅水管理等の耕種的防除と組み合わせる。
- ④1回目の散布後も発生状況に留意し、必要に応じて追加散布する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里1088

TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

Mail nougyougi_jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

